

卓越大学院プログラム現地視察報告書(令和2年度)

卓越大学院プログラム委員会

機 関 名	千葉大学	整 理 番 号	1 9 0 3
プログラム名 称	革新医療創生 CHIBA 卓越大学院		
プログラム責任者	中谷 晴昭	プログラムコーディネーター	中山 俊憲
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本プログラムは、「クラスター制 CHIBA 教育システム」によって部局の枠を取り払うとともに、学生が専攻・サブ専攻で研究成果を上げることで海外ダブルメジャー相当の博士を育成するプログラムであり、概ね計画通り立ち上がり、順調に運営され大きな問題点は見当たらなかった。 ・履修生については、初年度となる令和2年度に15名という少数精鋭で受け入れており、意見交換を行った学生からは不満や問題点の指摘はほとんどなく、本プログラムの様々な支援策により満足度が大変高い。唯一の指摘としては、修士課程の学生から、博士課程で履修するような他研究室との連携のきっかけとなるプログラムをより早い時期から受けたいという前向きなものがあった。 ・新型コロナウイルス感染拡大の影響に関しては、オンライン形式の講義の活用や少人数に絞った演習の実施など種々の対策が実施され、WEB 会議利用による効率化や講義内での発言の活性化などメリットも出始めている。海外留学が前提のダブルディグリーを目指すコースに関しては大きな影響が予想されるが、まずは国内での研究を優先することにより、現状では問題は顕在化していない。 <p style="text-align: center;">【大学院教育全体の改革への取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学の大学院改革の取組は、学長のリーダーシップのもと大変意欲的に進められており、「トリプルピークチャレンジ」として分野融合型の教育研究を推進し自然科学分野と人文・社会科学分野をまたぐ「大学院総合国際学位プログラム」を新たに立ち上げるなど、すでに多くの成果が得られている。その中で採択された2件の卓越大学院プログラム及び博士課程教育リーディングプログラムが重要な位置付けとなっている。引き続き大学院教育改革への具体的な取組が期待される。 ・今後の大学全体への波及効果の点で、プログラムにおいて教授のみが学生の指導に関与することとならないよう、若手教員もプログラム内で力を発揮できるような組織としての仕組みを整備することが求められる。 <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスター制 CHIBA 教育システムにより、多くの融合領域研究が生まれることが期待され、その過程で学生の自主性を重んじることは大変良いことであるが、特に初年度の学生においては指導教員等がサポートし、大学のビジョンも包含した好事例となるような取組に期待したい。このような融合領域研究を創出するプロトコルが、大学院教育改革の取組につながると考える。 ・新型コロナウイルス感染拡大への対応については、感染拡大の状況を見守るだけでなく、海外研修などに関して今後の感染拡大状況のレベルに合わせてどのような方策を立てるかを学生に示し、学生の修学に対する不安を取り除けるよう柔軟な対応をしていただきたい。 ・プログラムとして学生の受入を開始したばかりであることや、新型コロナウイルス感染拡大の影響により実施が遅れたカリキュラムもあること、また海外への派遣を含め 			

今後も多くの内容が実施されることから、学生への十分なフォローアップをしていくことが必要である。